

ステップ1で理解・共有した地域の災害特性をもとに、どんなマップを作るのか、どういう項目にするのか、マップの目的を明確にしてマップと項目を考えます。

### 1. 目的を明確にしたマップ

#### グループ作業

参考情報として大地震が発生あとの時間の流れを想像しながら、どんな場面で、誰が、どんな情報を必要とするのかを考え、マップの目的を明確にし、ステップ1で使った地図を参照にしながら、マップにのせる項目を考えましょう。

#### 手順1：マップの目的を考える

災害発生後の時間経過を考えながら、マップの目的を考えます。参考として **時間経過表** をご覧ください。マップの目的は例えば次のようなものがあります。

- 例) 応急救護マップ：けが人の手当て、家屋からの救出を行うため  
避難誘導マップ：一時避難所または地域防災拠点へ安全に避難するため

**項目シート**の上部には、以下の3つを書きます。

マップ番号： マップごとに1番から順番に番号をつけていきます。

マップの名前： マップのタイトルです。

目的： そのマップの目的です。

#### 手順2：マップの項目を考える

そのマップに必要な項目を考えましょう。項目は大きく分けると2つあります。

危険項目： その目的のために危険となる物・場所

資源項目： その目的のために役に立ちそうな人・物・場所。

**項目シート**に項目を書き込みましょう。書き込む内容は以下のとおりです。

項目番号： 1から順番に番号をつけます。

危険、資源、その他： 項目が該当する種類に○をつけます。

点、線、面： 地図で表現する方法を選びます。消火栓などの地点のような場合は「点」、避難ルートのような道のような場合は「線」、公園のように広がりがある場合は「面」を選びます。

なぜ?: その項目を挙げたのかの理由を書きましょう。不要な場合は記入する必要はありません。

資源未確認: 「資源」に○をつけた場合に、本当に役に立つのか未確認の場合に○をつけます。

1つ目のマップの項目をシートに書き込んだら、手順1に戻り、新しいシートを用意して、次のマップの目的を考え、手順2で説明したように項目を考え、シートに書き込みましょう。

#### ♣ マップの目的と項目を考えるための参考情報

- ◆ 一般的な防災資源としては、「その他参考資料」にある「地域の防災資源の例」と「災害時に役立つ地域資源の例」が参考になります。
- ◆ 参考となる情報としては、e 防災マップコンテストにて各地で作成された e 防災マップが参考になります。グループページには、「全国各地の e 防災マップ」へのリンクがありますので、そちらからご覧ください。
- ◆ リスク研究グループ広報誌「リスク情報と地域防災 11号」では、コンテストの受賞マップの



## 時間経過表

地震災害の対応は、大きく分けて5つの段階があります。

1.  : **自分自身の安全確保**
2.  : **安否確認**
3.  : **避難対応**
4.  : **避難所運営と避難所生活**
5.  : **避難所の整理統合と復興**

### ●災害時の時間の流れから見た出来事の展開（地震・津波）

時期 経過時間	一般的な 出来事	行政の対応	ライフライン の状況	3つの地域の範囲で起きそうな出来事		
				近隣住区で 起きること	避難所とその周辺で起 きること	広域住区 で起きること
<b>発災時の対応期</b> 発災から1分 後まで	地震が発生する 建物が倒壊する	大きな地震でも1分程度で揺れはおさまります。	停電、断ガスなどが起きる	安全姿勢をとる 火を消す		
<b>家庭内対応期</b> 5分後まで	テレビやラジオで緊急情報	災害対策本部設置（国・都道府県・市町村） 緊急体制（職員召集） 救急出動		ケガの確認 同居家族の安否確認 初期消火 ドアの開放		
<b>自宅周辺対応期</b> 10分後まで	震源地や規模が報道 出火が始まる		断水が始める	自宅（建物）周りの安全確認 テレビやラジオからの情報収集 携帯電話で連絡		
<b>近隣対応期</b> 30分後まで	各地の震度が報道 救急救命活動 火災が拡大する	防災広報無線による呼びかけ（二次災害防止や避難など）	電話の通話規制 災害用伝言ダイヤル開設	近隣各間での安否確認 ケガ人の救助・救命 倒壊家屋からの救出など		
<b>地域（町内）対応期</b> 1時間後まで	二次災害防止の呼びかけ	被害状況調査	各ライフラインで復旧作業が始まる	一時集合場所への参集 避難所への移動 要援護者の避難の支援・介助		
<b>避難所移動期</b> 3時間後まで	災害の被害中心がほぼ判明する	避難所担当職員が避難所に展開		町内会での安否確認完了	避難所の開設 被災者の受け入れ 被災者収容用の機材搬入	

時期 経過時間	一般的な 出来事	行政の対応	ライフライン の状況	3つの地域の範囲で起きそうな出来事		
				近隣住区で 起きること	避難所とその周辺で起 きること	広域住区 で起きること
<b>被災地の情報把握期</b> 6時間後まで	被害の範囲が ほぼ判明				避難所運営組織の 活動開始	
<b>生活リズム 再建期</b> 12時間後ま で					給水活動 給食活動 避難所での宿泊準備	
<b>離散家族の 集合期</b> 24時間後（1 日後）まで					支援物資の到着、配布 市の災害対策本部 への連絡 炊き出し	
<b>長距離移動 の完了期</b> 2日後まで	広域火災が鎮 火する ボランティア が被災地に展開	ボランティア センターの開 設			ボランティアとの 連携 在宅避難者への地域 支援	避難所間の連携 地域全体の被災情報 の共有化 要援護者支援の連 携
<b>公的支援の 体制完了期</b> 3日後まで	自衛隊が全域 に到着 生き埋めなど の生存率低下	雨に備えてブルー シート配布	停電の解消		自衛隊が避難所に 到着	地域福祉の継続の ための取り組み 福祉避難所との連 携など
<b>人命救助活 動完了期</b> 7日（1週間） 後まで	行方不明者の 捜索完了	応急危険度判定	危険な家屋取り 壊し			被災者の健康維持 活動
<b>避難所整理 統合期</b> 2週間後まで	避難者数が減 る 仮設住宅の建設 開始 被災地外へ移動 する人が増える	罹災証明発行 見舞金などの 受付	水道や都市ガ スの復旧			避難所の統合合併
<b>生活再建・ 復興期へ</b> 1ヶ月後まで	仮設住宅建築 完了（入居）	復旧方針、復興 計画の策定、発表				仮設住宅の調整

※ この時間経過表は、郊外の比較的低層の宅地が多い住宅街を想定した時間経過表です。